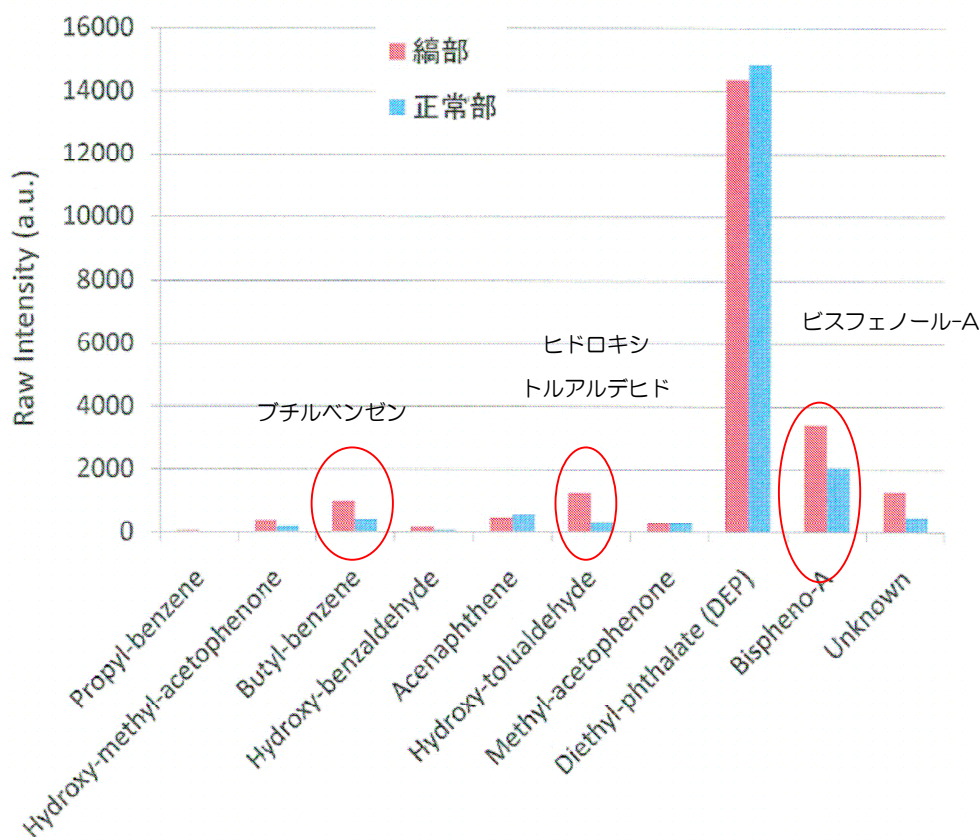


# GC/MS 分析事例

～ 樹脂製品の劣化 II ～ (IはTG/DTA事例参照)

- 目的：屋外で使用されていたポリカーボネート製品に縞模様が発生した。  
縞部と正常部を比較して、縞部に起きている変化を明らかにする。
- 試料：縞部と正常部のそれぞれをエタノール含浸の石英ウールで拭き取り、  
濃縮、定容したもの。
- 測定条件：カラム DB-1  
温度 50°C(1分) 15°C/分で 280°C迄昇温

GC/MS 測定結果(縞部、正常部比較)



測定結果：縞部、正常部にほぼ共通の物質が検出された。  
縞部では、ビスフェノール-Aなど、ポリカーボネートの加水分解物と推定される物質が多く含まれることが判った。  
縞部は、正常部に比べポリカーボネートがより劣化していたと推定される。

\* GC/MSは、微量成分の分析が可能な、有機材料などの貴重な解析手段である。